

いこいの村 お寿司登場

題字 梅の木寮

2014年(平成26年)3月20日発行

第382号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畠町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

いこいの村デイサービス お寿司パーティ



次々に握られる“職人技”に皆さん釘づけです！

手遊び・ひょっこ踊り・腹話術と多彩な出し物に笑顔！

「いや～。目の前で職人が握ってくれるんか」
普段とは違う特別感が、利用者の皆さん的心をワクワクさせます。「こんなにせいたべして良いんやろか～。幸せやわ～」大満足の声があがります。
「デイサービスでおいしい寿司を食べたい」との昨年度からの要望が実現しました！
また、午後からは、『スマイルたの』の皆さんに趣向を凝らした出し物を披露され、利用者の皆さんに笑顔の花を咲かせていただきました。

「ああ～。楽しかった」

お腹も心もいっぱいに満たされた特別な一日はあつとう間に過ぎました。

(高齢福祉部デイサービス係
菅井奈津子)

2月22日(土)
デイサービスセンターの近

所の豊寿司さんにお越しいただき寿司を握っていただきま
した。



笑顔の写真展

1年間の笑顔の写真を集め
ました。



パン作りつゝて 難しこー！



たからの里には5名の仲間(利用者)が栗の木寮、コスモス寮、綾部市内から通っています。

新しい仕事への挑戦

たからの里の仲間は、これまででき上がった商品(石窯パン)の納品、販売が仕事の中心でしたが、昨年末から新しい仕事を始めました。

《仕込み》

材料を計り、混ぜる作業です。仲間からは「正確に」計算されるか心配」と不安の声。「あと1g…。あー、多過だいたー。もう一度」と何度も繰り返し練習して、今はとてもスムーズに計れます。

グラム数は大丈夫かな。少し減らしても調整しよう。



手で混ぜるのは力がいるなあ。てうねいに、てうねい。

手の形を丸くして…。
なかなかうまくいかないな。

前川恵子
(いこいの村・栗の木寮)

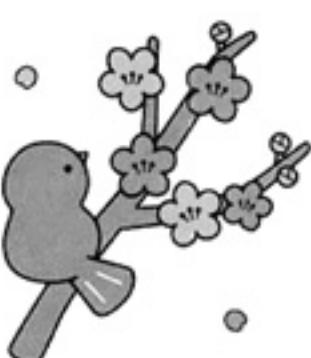
感染症予防に全力

1月、2月と、全国的にインフルエンザが流行し、いこの村でも、インフルエンザ対策に全力で取り組みました。昨年11月には利用者、職員がインフルエンザワクチンの接種を受け、流行の兆しがあると、看護師や各部の責任者で構成する感染症予防委員会を随時開催し、情報共有を図りました。

自分たちの手でパンを作り、販売することで、パンが売れた時「ありがとうございます」「この前のパンおいしかったよ」と言われるひとの喜びが大きくなつたように感じます。

これからも皆さんと一緒にいよいよ石窯パンをお届けできるよう頑張ります。

山に雪が残っているせいか、風は冷たいですが、そこには春の気配を感じます。いこの村の梅の木にも小さな「つぼみ」が付き始めました。



いこいの村
聴覚言語障害ｾﾝﾀｰ
所長 柴田 浩志

梅の木寮コロナ禍化の効果
今年は、現在までのところ、梅の木寮でのインフルエンザやノロウイルスの発症はありません。昨年12月から全部がコロナに切り替わり、個室での生活になつたことで感染のリスクが低くなりました。

た。職員や栗の木寮の利用者がインフルエンザに感染し、うがい・手洗いの徹底マスクの着用、施設内の移動制限等、いこの村内の感染拡大防止に努めました。また、この時期はインフルエンザのみならず、ノロウイルスの発生時期でもあることから、1月末には全職員を対象に感染対策研修を開催しました。

